
雪と雨 1

雪菊桶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪と雨 1

【Nコード】

N4084J

【作者名】

雪菊桶

【あらすじ】

雪と雨

雪は不思議な力を持つ高校生
雨はどこかに居るそれは人間の世界には居ない
睦それを客観的に見る人物

1 睦の記憶

その日、この町には大雪が降った、7年ぶりの大雪、朝からラジオやテレビは大寒波のニュースを伝えている。　　どうやらこの大雪の影響で、各地で交通機関が麻痺している、どうやらこの近くでも大きな事故があったようだ、時刻は朝の7時、通勤、通学であわただしい時間だ、　　この雪の影響で電車はとまってしまった、睦は急いで学校に行った。　　睦が通っている高校では教師達が雪かきをしていた。

睦はクラスに入り、本を読み出した。　　やはりクラスの中ではこの大雪で発生した事故の話だった。

クラスではなぜかラジオが付いていた。　　「8時のニュースです。今朝の雪の影響で各地で交通機関の麻痺が続いています。まず交通事故のニュースです。今朝宮市の路上でスリップした車が通学中の小学生の列に突っ込み1人が死亡、1人が意識不明の洪滞になっています。この事故の影響で、国道00号線は事故処理のため通行止めとなっています。」クラス中が騒ぎだした。「俺この事故みたぜ」

「見た見たかなりグロかった」　　「今日死んだ小学生って雪の妹だろ」　　など

もちろんその時睦は死んだのが雪の妹とはしらなかった。　　雪とは幼馴染と一緒に勉強したり、遊んだりしていた、もちろん家で勉強するときは雪の家か睦の家かのどちらかだった。

雪の家で勉強するときに必ず雪の妹は雪の隣にいた、一言もしゃべらないが・・・

雪と睦みは高校一年生の16歳　雪の妹は小学6年生11歳

雪と雪の妹は5歳年が離れていた。　雪の妹の名前は雨

変わった名前だ雪と雨はそこまで兄弟的に仲が言い訳ではなかった。

雪は遅刻して学校に来た、もう国語の授業が始まっていた、

睦は雪の顔を無意識に覗き込んでしまった、雪の顔は普段と全くと言っていいほど変わっていないかった。まるで今日雨が死んでしまうことを知ってたかのように、クラスは雪が来てから、

ザワザワと騒ぎ始めた、雪はそのザワザワにもどうじず、手早く国語の教科書、ノート、筆記用具など必要なものを取った、雪はその日一言もしゃべらなかった、

家に帰り、睦は塾に行く準備をして塾に行った、雪はもう融けていた、

睦は電車の中で携帯ラジオをとり夕方のニュースを聞いた、「この雪雲は北上しました。」

いきなり気象情報が流れていた、睦は雪の妹が巻き込まれたと思われる事故のニュースが流れると

無意識にイヤホンの音量を上げた「今朝7時10分ごろ宮市の路上でスリップした乗用車が小学生の列に突っ込みました、この事故で宮市の小学6年生 木田雨（11）が死亡、同じく宮市の小学6年生で意識不明の重体だった西岡知子さんも搬送先の病院で死亡しました。この事故の影響で国道00号線では事故の処理のため午前10時まで通行止めでしたが現在は平常通り通行できます。ここま

で今朝の宮市の事故のニュースでした。」睦は顔を顰めた。あの時間睦は確かに事故のあった場所を通ったはずだった。睦は塾の中でもずつと考えていた、

時刻は午後10時 授業の終了を知らせる、（ヴィヴァルディの四季から春）が流れていた、

睦は家に帰り、風呂、夕食を済ませ、もう一度よるのニュースを聞いたが、今朝の事故は報道されていなかった、しかし今日の大雪のニュースは報道されていた。それを聞き睦みは寝た。

2雪

雪はその日の夜雨の通夜に出席しなければならなかった、自分の妹が亡くなったわけだから、当然だ

雪の母親は泣き崩れていた、しかし雪はなぜか涙が出なかった、日常にいる人が突然消えた。

雪はまだ事の状況が把握しきれていないようだった。

次の日雪は葬儀に出席するために、欠席した。雪は雨の遺体を一度も見ることなく、火葬された。

なぜか雪は雨の遺体を見ようとしなかった、まるで雪の隣には雨が今でも生きているような、異様な空間が出来ていた。その夜雪は、電話をしていた、誰に電話をしているのか？

想像も付かない？ なぜ電話をしているのか？ なにを話しているのか？ 誰に？ 何の目的で？

様々な疑問が参列者達の頭の中を駆けめぐる、雪の周りには異様なオーラが出ていた。

明らかに普通に電話をしている様子には見えない、体が小さいがそこには確かに圧倒的な存在感を放っていた。雪は電話を終えて、食事を食べた、どうしてこんなに小さな体でそんなに食べれるかと言うほど、雪は誰とも一言もしゃべらなかったが、携帯電話は常にチェックしていた。雪には名前のおり雪のように白いオーラが出ていた、雪は睦みと時々勉強会を開く、そのときも睦とはあまり口を訊かずただ黙々と勉強を互いにし合いあう、分からないところがあったら、睦が雪のどちらかが教える、

睦と雪は普通の人が見たらまず、話しそうにない それは二人の性格、容姿など全てにおいて。

二人が一致しないからだ。雪は本物の雪のように冷たく、白い菊のように美しい、

睦は、どこにでもいそうなく普通の高校生、体系もやせてもいないし太ってもいない、

髪の毛が天然パーマ以外は、本当に普通の高校生、性格もよくもなく悪くもない。全くの普通

オーラなんかを感じない、雪と睦は正反対だ。雪はその日公園にいた、誰も居ない公園

なにを考えているのか分からない。見てみるととても美しい姿だった。

3 睦

睦は朝を置き朝食を取り

足早に学校に向かった、その日雪は学校に来ていなかった、「そういえば、最近雪と話してなかったな」頭の中では雪のことばかりを考えていた。英語の授業が始まった、テンションの高い英語教師の声

全てが睦の頭で反響した。その日の授業は全く手に付かなかった。

睦は学校が終わると、雪の家に行ってみることにした、最近全然話していないし、雪の家は学校から徒歩10分ほどで到着する、

家は新しくきれいな家だった。睦は玄関でインターホンを鳴らしたが、誰も出なかった。どうやら留守のようだった。いや居留守かも知れない、睦はそれ以上インターホンを押すことをしなかった、葬儀が終わって、気が滅入ってるんだろう、そんなときには誰も他人となんか会いたいはずがない、

少なくとも自分だったら、出たくないだろうと考えたからだった。

家に帰る道に、公園があった。

小さな公園だ滑り台が一台と時計、ベンチだけがおいてあるだけの簡単な公園だ、睦はそこにある、ベンチに腰をかけた。そのベンチに座り雪のことを考えた、そういえば睦と雪がであったのもこの公園だった、初めて会ったのは小学3年生の冬、北風が吹く寒い日雪はこの公園でじつと大きな木を見ていた。そのとき睦は塾をサボっていた、当てもなく時間を潰していた。そのときに雪とであった。

はじめはなにを話しても答えてくれなかった、「何で木を見てるの？」「・・・・・・・・」

このように話しても返答はなかった。そのときふと空を見ると雪が降ってきた。

彼女は雪を手のひらで受け取り。「キレイ」と一言だけ言ってどこ

かへ行ってしまった。

いや「どこかへ消えてしまった」と言うほうが分かりやすい。

睦はそんなことを考えながらぼんやりと空を見上げていた、空からは白い粒が降ってきた

これは雪なんだろうか？

4 雨との思い出

雪は公園でふと思い返していた、雨とはあまり遊んだりはしなかった、普通の兄弟のようにケンカもありしたことがなかった、雪は雨との思い出を一生懸命探したがどうしても見当たらなかった。

雪は方になにか重いものが乗ったような気がした。その重いものはいつの間にか、どこかへ行っていた。しばらくして雪は親の都合で東京に転校することになった。

雪は東京に行ったことが一度もない、しかし雪に不安はなかった、

雪は一つだけ手放せないものがあつた。それは雪の人生にとっ

て忘れることの出来ない「物」だった。

ここまでが1です読んでいただき本当にありがとうございます、中学生の拙い文書ですが、読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4084j/>

雪と雨 1

2010年10月8日12時06分発行